２０２０夏　中学生キャンプ　感想とお礼

叡示朗は、ピザ作り、夜の氷鬼、餅つきが、最高に楽しかったそうです。涼しくておすすめ！と言ってます。詳しくは語らないのでした。
面白いことに家事を手伝うたびに思い出すらしく、手を動かしながら、大地ではね、と話してくれたエピソードはいくつかあります。でも、〇〇について書いてもいい？って聞くと、ニヤニヤしながらダメ！というので書けない〜。
本人の承諾が得られないのでこんなところです。
ありがとうございました。
青山さんの渾身の HP も見ました。10 代のあれこれ炸裂！全身全霊でいっしょの時間を過ごしてくださったんだろうなぁと思います。‥こっそり見てみたかったです。（Y さん）

蓮は昨晩、「お風呂に入れてさっぱりしたし、ベッドは柔らかくって身体がほっとしているけど、上を見ても星は見えないし、虫の音がしない。何よりここには友達がいない」といって寝落ちしました。夏休みの宿題をやりながら、火を起こしたこと、畑に沈んじゃった靴のこと、のんたん母さんのお料理が美味しかったこと、ゆうがさんのところのお子さんと遊んだこと、川で水の中で歩いて、陸に上がってからも足に水の流れが当たる感じがずっとしていたことを話してくれました。
皆んなと遊んだことが一番楽しかったって。
これは親の感想ですけど、できないと思うことには絶対に手を出さなくてやる気にさせるまでとっても面倒くさい人なのに、川で遊んだり、ピザ作りに参加したことを聞くと、やってみようと思わせてくださったのだと、大変だっただろうなぁと思いました。
ありがとうございました！　（S さん）

真太郎が帰って早々に言葉にしたのは、「ただいま〜あ〜ホームシックにかかってる、どうしよう、帰りたい大地に〜」でした。
そして、一緒に行ってくれた仲間のことを「みんな家族みたいだったんだよ」と。それを聞き、それだけで有り難い経験をさせてもらってきたことがわかり、心から感謝の気持ちでいっぱいになりました。
そして、案の定といいますか、今回は標高の高さで真太郎は中耳炎になってしまったとのこと。本人がいうには、新幹線は耳栓を入れていたけど、山の標高差に耳栓はうっかりしてた、と。青ちゃんから夜にお電話を頂き、「痛がってますけど、自然療法で全力でやってますから大丈夫です」というお言葉。お手を煩わせてしまい申し訳ない気持ちと、今まで旅先からそんな連絡がきたら不安になるだろうところ、逆に私は安心感を味わいました。

その安心感ってなんだろうとずっとそれから考えていたのですが、真太郎が帰宅して理解ができました。
「青ちゃん、これやって治らないわけないって滅茶苦茶ポジティブなんだよね〜笑 その迫力で朝には治ってたよ〜」とやはり不思議そうに話してくれました。
(不思議そうなわけを私が推測するには、痛みのレベルがかなり強かったことと、普段から自然療法はやっているので、その位の中耳炎は翌日に治った経験がないからではないかと思います)
そうか！その迫力だったんだ、私の安心感も…。
心が体を作るとはこういうことなんだろうな…と、私にとってもとても貴重な体験をさせてもらいました。
追記 蝉の脱け殻を飲むのは知りませんでした。
今後レパートリーに入れたいと思います。 （O さん）

絢葉にとって大地は心のホーム、ありのままの自分でいられる場所なのだと思います。
帰ってきてからは穏やかでした。自分から話をしないのですが、何かしていると思い出すようで、こんなことをした、あの子がこんなことを言っていたとニコニコしながら話しだします。
大地にいる間は、大家族の一員として暮らしをしているのだと思います。こういった雰囲気が、大地らしさであって彼女が何度も行く理由なのだと思います。
そして、何より子ども達を受け入れてくれた大地の皆さんの思いに感動しました。皆で行くことができてよかった。大地のみなさま、ありがとうございました。 （Y さん）

みなさんからの感想を読みながら、ポツリポツリと話していた断片的なことが、網の目のように繋がってきて、息子がどんな体験をしたのか立体的にわかってきました。
蝉の抜け殻のエピソードには驚きました。
真太郎くんのお耳のためだったのですね。手当て養生は、心も元気付けるのかなぁと、感動しました。煮出してのむなんて・・・こんな知恵、初めて知りました。青山さんご家族の暮らしぶりを改めて想像しました。
穂礼は、青山さんと私が言えば「青ちゃん」と読んで欲しいと親しみを込めていい、HPの写真を嬉しそうに１枚１枚解説しながら、青ちゃんや、仲間との時間を愛おしそうに振り返っていました。
おとなや社会の矛盾に目を開き始めた「思春期」の子どもたちが、心を開く本物さが、大地にはあったのだなぁと、息子の話を聴きながら感じました。
あやはにとっては、ホームのような場所なのですね。

こんな温かな家族のいるなんて、素晴らしいな！
穂礼は、次はスキーができる時に遊びにゆきたい。来年も行きたい、と、今から楽しみにしています。　（T さん）

すみれは、本来自然の中で自由に活動することが好きです。それが 5 年生からの受験勉強とコロナによって彼女らしさを封印しながら生活していました。このまま自粛が続くのかジレンマの日々でした。
そこで大地との出会いがありました。まず帰宅後の第一声が、興奮気味な口調でやばかった！でした。
大好きな焼きそばを葉っぱのお皿で食べたこと、芝生の上で眠っている間に寝袋ごと斜面だから下の方へスリップして他の人とぶつかったこと、お風呂に壁がなくて、でも五右衛門風呂だったからまた入りたい！と思ったこと。どの話も笑わずにはいられないエピソードばかり。こんなに楽しそうなすみれ、久しぶりです。
大好きな鬼ごっこを何年ぶりかに思い切り出来た事、パンやピザや蕎麦を作ったり、大好きな本の世界にひたりながら眠りにつけたこと、家では夜更かし気味で朝寝坊のすみれが、一番早く起きた日があった！（本人談）と信じられない話も聞きました。
今も自分で起きてきます。
信じられない。
大地の力を感じます。
自然の中に身をゆだねる心地よさに包まれた 5 日間は、すみれらしさを呼び戻してくれたと思います。
我が家には故郷がないので、大地が心の故郷になったらと勝手に願っています。
ご一緒して下さった皆さま、すみれがお世話になりました。濃厚な 5 日間だったと思います。ありがとうございました。　（T さん）

参加者全員でライングループを作り感想や家で話していたことなどを交流しました。
青ちゃんからのメール、ホームページ、子ども達からの話、みんなの感想をシェアして色々なことがみえてきました。思春期の子どもたちに真っ向から向きあってくださり本当にありがとうございました。
自粛中は家族意外とはろくに話もできず、友達とも SNS で会話をするようになったり、外出もままならなかったり、子ども達を取り囲む環境がガラリとかわってしまいました。こんな中、大地での暮らしが子ども達にもたらしてくれたものは、希望の光だったと思います。
大地の皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです。Y

下